

<講演 2.> 「蝦夷地 北方警備の道 猿留山道」

えりも町郷土資料館長 中岡利泰

1. 猿留山道の位置など

現在のえりも町、日高山脈襟裳国定公園内に残存。
江戸時代の記録には、6里24丁～8里（26.3～31.4km）。
国史跡指定（H30年2月13日）範囲は6.3km。

2. 猿留山道開削の背景など

19世紀 ロシアの南下政策 ～ 蝦夷地警備・国防
猿留山道・様似山道 ～ 江戸幕府の命で造られた蝦夷地最初の官製道路
開削 寛政十一年（1799）

大河内政壽が頭。最上徳内・中村小市郎・小林卯十郎が監督

南部藩・津軽藩から派遣された武士が労働者？～（詳しく調べきれていません）
・文化六年（1809）新井保恵「東行漫筆」
『今回も道を作ったが、放置しているという。サルヘン（猿留）から
ヒタ、ヌムケ 道全体（7.9km）をつくるのにアイヌを200人区使った。』

工事期間は？

『1799年6月21日に切り開き・・7月10日には取放なたれ』（最上徳内「蝦夷草紙」）
『サルヘンの標杭に、新道懸り最上徳内、小林卯十郎、寛政十一年未八月』
（新井保恵「東行漫筆」）

＊ 前年に近藤重蔵が「ルベシベツ山道」を開削

松前藩 ～ 幕府直轄 ～ 松前復領 ～ 幕府再直轄 ～ 明治維新
寛政十一年（1799） 文政四年（1821） 安政二年（1855） 慶応四年（1868）

東蝦夷地（太平洋沿岸）、西蝦夷地（日本海・オホーツク沿岸）に
道路開削が広がる。（警備 < 流通・交易）

3. 江戸時代の紀行文、絵図が残る。

伊能忠敬（寛政十二年1800） 猿留山道を歩測
松浦武四郎（安政三年1856～ 三度通る
箱館奉行 村垣淡路守範正（安政五年1858） 東蝦夷地巡撫の際、猿留山道通過

- ＊ 駕籠、乗馬、荷馬も通行。 積雪期間も通行。
- ＊ 沼見峠には、妙見神祠（安政六年1859）、
馬頭観世音菩薩（文久元年1861）が現存。